

首都圏で就職した富山県出身女性との意見交換での主な意見 (R1. 11. 5)

テーマ なぜ U ターンしなかったのか

- ・海外に出て働きたかったため、東京に本社があるところを選んだ。
- ・県内企業はつまらなそう。マーケティングをやるとき、ジャッジするのは東京にある本社。地方では時間がかかる。
- ・東京で就職してキャリアを積んで富山に戻ることはできても、富山で就職して東京に戻って羽ばたくということは難しいと感じた。
- ・新規採用のゴールデン切符は都内で使いたいと思った。
- ・富山に戻るなら県庁か大手企業数社。それ以外は都落ち感がある。その風土の解消も必要。
- ・自分が思い描く先輩が東京にいたが、富山になりたい大人がいなかった。
- ・富山は保守的で、やる気のある人に対して冷ややかな目で見える人が多い。
- ・地元では文系を採用してくれない。
- ・やりたい職種（情報、輸入、食品系）がなく、やりたいことができない。
- ・非正規で働いていたので、富山では非正規雇用の人を正規で採用してくれない。新卒→終身雇用しかない。
- ・固定概念（新卒、正規で退職まで）が強い。転職でスキルアップする文化がない。
- ・子どもの頃から富山が好きではない。母親が東京から U ターンしており、母親がそのことを後悔し、自分には戻ってこなくてよいと言った。
- ・富山での面接の際、男女差別を感じた（特に上にいけばいくほど、頭が固い。）
- ・年収（東京と同程度）。30 歳までに年収 1000 万円は富山では無理。
- ・固定概念（よい高校・大学→よい就職先→30 までに結婚、子ども・・・）が強い。柔軟な考え方、いろんな価値観を持つ人が増えるとよい。
- ・富山はリモートワークが進まない。ズームもスカイプも、使うように進めても使おうとしない。
- ・教育にもっとお金をかけるべき。例えば、小学校の間に全員留学させるとか、教師の半分を外国人にするとかしないと、富山の保守的な傾向は変わらない。
- ・富山では、フリーランスや IT 企業勤務という、大丈夫？と聞かれる。多様性のある働き方が認められない。親が不安がって面倒なので、ずっと「大手の企業に勤めている」と言っておいた。
- ・東京の方が起業しやすい。
- ・富山で転職しようと思っても、そもそも新卒以外の求人が少ない。
- ・富山自体をどう見せたいのか、伝わらない。メーカー気質のためか、いいものを作ったら売れると思いついでいるが、パッケージが悪いと伝わらない。
- ・富山のものと誇れるデザインがない。地方はそういう予算をとっていない。富山県の HP もわかりづらい。
- ・富山で活躍する女性のロールモデルがあるとよい。（年齢、文理、職種など細分化されたもの）